

5年後に向けての参考指標

第3期大阪狭山市教育振興基本計画を効果的かつ着実に推進するため、「5年後に向けての参考指標」を設定しました。

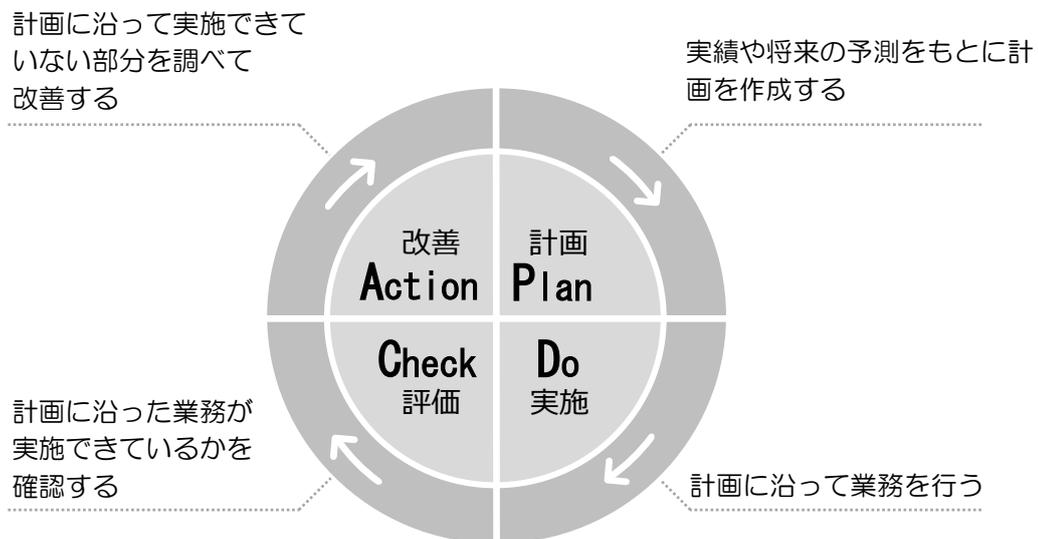
対象期間は令和11年度までとし、可能な限り定量化できる形式的な指標を設定し、その実効性を確保するため、PDCA（計画・実施・評価・改善）サイクルにより、達成状況について、毎年、点検・評価を行いつつ、施策の実行に努めます。

第3期大阪狭山市教育振興基本計画は、「学びあい、つながりあい、未来に輝く人づくり」を基本理念として、生涯にわたる教育について指針が示されています。

本計画を効果的かつ着実に推進するためには、本計画に掲げられた基本方針を踏まえながら、社会の潮流や教育を取り巻く環境の変化に的確に対応し、進捗状況を検証しながら施策を展開する必要があります。

第3期大阪狭山市教育振興基本計画の「5年後に向けての参考指標」は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により毎年実施している「教育委員会事務の点検及び評価」を行う際の規準とします。

なお、計画期間の途中であっても、教育を取り巻く新たな課題に対し迅速かつ適切な対応を行うために、評価指標の見直しを行っていきます。



5年後に向けての参考指標

基本方針	重点目標	指標の考え方	指標	現状(R5)	目標	指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠、出典元	事業所属	
1 これからの社会を生き抜く力を養います	(1) 遊びを通して豊かに学ぶ就学前教育・保育の充実	子育てをサポートする体制ができているか	認定子育てサポーター登録数	108人	145人	登録者数を増やすために、サポーター養成研修を実施する。(2年に1回の募集で、登録者数145人をめざす。サポーター養成研修は年2回)	こども家庭支援グループ	
			プレイセンター設置数	5か所	7か所	第五次大阪狭山市総合計画実施計画における目標値である設置数7か所を地域や市民の協力を得ながらめざす。	こども家庭支援グループ	
		多様化する保護者のニーズに対応した教育・保育の提供体制が整備できているか	幼稚園・保育所・認定こども園等の利用定員	教育 1,025人 保育 1,445人 (R6)	教育 575人 保育 1,449人	「第3期子ども・子育て支援事業計画」による教育・保育の提供体制の数値を目標値とする。	こども育成グループ	
			保育所等の待機児童	0人 (R6)	0人	保育所等の待機児童数が0人となることをめざす。	こども育成グループ	
	(2) 社会の変化に即した新たな学びの展開	主体的・対話的で深い学びが推進されているか	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という設問に、肯定的な回答をする児童生徒の割合	小学校	80.1%	小学校 84%	「全国学力・学習状況調査」にて肯定的な回答をする児童生徒の割合の3%以上上昇をめざす。	教育指導グループ
				中学校	83.3%	中学校 87%		

基本方針	重点目標	指標の考え方	指標	現状(R5)	目標	指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠、出典元	事業所属
		主体的・対話的で深い学びが推進されているか	主体的・対話的で深い学びの実現をはかることができた教員の割合	小学校 96% 中学校 98%	小学校 100% 中学校 100%	「大阪狭山市保育教育指針」に基づくふりかえりにて肯定的な回答をする教員の割合	教育指導グループ
		学びに向かう力が向上しているか	「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という設問に、肯定的な回答をする児童生徒の割合	小学校 75% 中学校 71%	小学校 78% 中学校 74%	「全国学力・学習状況調査」にて肯定的な回答をする児童生徒の割合の3%以上上昇をめざす。	教育指導グループ
			「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」という設問に、肯定的な回答をする児童生徒の割合	小学校 65% 中学校 69%	小学校 68% 中学校 72%	「全国学力・学習状況調査」にて肯定的な回答をする児童生徒の割合の3%以上上昇をめざす。	教育指導グループ
		読書活動が推進されているか	図書を活用したコンクールの出展数	6,713人	7,300人	出展数の増加をめざす。	教育指導グループ
			学校園への図書貸出し数	5,569冊	6,070冊	こども園や学校などと連携し、貸出し数の増加をめざす。	生涯学習グループ

基本方針	重点目標	指標の考え方	指標	現状(R5)	目標	指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠、出典元	事業所属
		ICTの活用や教育の情報化が推進されているか	日常的に学校全体でICTを活用した授業を行っている学校の割合	80%	100%	「全国学力・学習状況にかかると学校質問紙調査」において、「ICTを活用した授業を1クラスあたり『ほぼ毎日』行っている」と回答した学校の割合100%をめざす。	教育指導グループ
			ICTを活用して授業ができる教員の割合	84%	100%	ICTを活用して授業ができる教員の増加をめざす。	教育指導グループ
		外国語教育が推進されているか	「英語の勉強は好き」という設問に、肯定的な回答をする児童生徒の割合	小学校 67.9% 中学校 51.9%	小学校 71% 中学校 55%	「全国学力・学習状況調査」にて肯定的な回答をする児童生徒の割合の3%程度上昇をめざす。	教育指導グループ
			子どもたちの自尊感情や自己肯定感が育成されているか	「自分には良いところがあると思いますか」という設問に、肯定的な回答をする児童生徒の割合	小学校 86.8% 中学校 79.3%	小学校 90% 中学校 84%	「全国学力・学習状況調査」にて肯定的な回答をする児童生徒の割合の3%以上上昇をめざす。
		「学校の先生は、あなたのよいところを認めてくれている」という設問に、肯定的な回答をする児童生徒の割合		小学校 93.2% 中学校 86.1%	小学校 97% 中学校 90%	「全国学力・学習状況調査」にて肯定的な回答をする児童生徒の割合の3%以上上昇をめざす。	教育指導グループ
		(3) 豊かな心と健やかな体を育てる教育の推進	道徳教育が充実しているか	「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学校やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の設問に、肯定的な回答をする児童生徒の割合	小学校 83.9% 中学校 89.3%	小学校 87% 中学校 93%	「全国学力・学習状況調査」にて肯定的な回答をする児童生徒の割合の3%程度上昇をめざす。
	児童生徒に対し、きめ細かな指導ができていますか		暴力行為発生の割合(市内全児童生徒に対する千人率)	小学校 17% 中学校 38.5%	小学校 12% 中学校 33.5%	小中学校における暴力行為発事件数の割合の5%減をめざす。	教育指導グループ

基本方針	重点目標	指標の考え方	指標	現状(R5)	目標	指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠、出典元	事業所属
		児童生徒に対し、きめ細かな指導体制ができているか	不登校児童生徒のうち学校内外(教職員を含む)で相談指導等を受けていない児童生徒の割合(市内全児童生徒に対する千人率)	0%	0%	小中学校における不登校児童生徒が誰にも相談指導等を受けていない割合0%をめざす。	教育指導グループ
		健やかな体を育てる教育が推進されているか	学校給食における食中毒発生数	0件	0件	食中毒ゼロをめざす。	教育政策グループ
			「朝食を毎日食べていますか」という設問に肯定的な回答をした児童生徒の割合	小学校 95.5% 中学校 88.6%	小学校 97% 中学校 91%	「全国学力・学習状況調査」における肯定的な回答について、2%程度の上昇をめざす。	教育指導グループ
			「給食はおいしいですか」という設問に、肯定的な回答をした児童生徒の割合	90%	92%	給食アンケートにおける肯定的な回答について、2%の上昇をめざす。	教育政策グループ
		子どもたちの体力が向上しているか	体力合計得点の平均値の向上(男女平均値)	小学校 52.8点 中学校 40.5点	小学校 54.8点 中学校 42.5点	「全国体力・運動能力調査」における体力合計得点の男女平均値について、2点程度の上昇をめざす。	教育指導グループ
			「運動やスポーツをすることが好き」という設問に、肯定的な回答をする児童生徒の割合(男女平均)	小学校 86.3% 中学校 80.8%	小学校 90% 中学校 84%	「全国体力・運動能力調査」における、肯定的な回答をする児童生徒の割合の3%程度の上昇をめざす。	教育指導グループ

基本方針	重点目標	指標の考え方	指標	現状(R5)	目標	指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠、出典元	事業所属
		子どもたちの体力が向上しているか	全国体力調査における総合評価が上位ランクの児童生徒の割合	小学校 66.6% 中学校 61%	小学校 70% 中学校 65%	「全国体力・運動能力調査」の総合評価(文部科学省が示すテストの種目ごとの得点から換算)が5段階中の上位3ランクの評価となった児童生徒の割合の4%程度の上昇をめざす。	教育指導グループ
	(4) 教職員の資質向上	教職員が学び続けようとする活動を支援できているか	教職員研修の受講者の満足度	4.6点	4.8点	当該年度の夏季教職員研修実施後のアンケートにおける、受講者の研修満足度を維持・向上させる。(5点満点)	教育指導グループ

基本方針	重点目標	指標の考え方	指標	現状(R5)	目標	指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠、出典元	事業所属
2 一人ひとりを大切に する教育を推進します	(5) 子ども理解と支援教育の充実・推進	一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導がなされているか	「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の作成	100%	100%	「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」を、小中学校に在籍するすべての対象児童生徒について作成する。	教育指導グループ
			特別支援教育が充実している小中学校の割合	100%	100%	「全国学力・学習状況にかかると学校質問紙調査」において、「特別支援教育について理解し、生徒の特性に応じた指導上の工夫を『よく行った』』と回答した小中学校の割合を維持する。	教育指導グループ
	(6) 個の成長を支える教育の充実	自己の進路を選択する意欲が高まっているか	「将来の夢や目標を持っている」という設問に、肯定的な回答をする児童生徒の割合	小学校 79.7% 中学校 63.5%	小学校 85% 中学校 69%	「全国学力・学習状況調査」にて肯定的な回答をする児童生徒の割合の5%以上上昇をめざす。	教育指導グループ
			個別最適な学びの場を提供するために、学習に躓きのある児童を把握する	MIM-3rdの割合	19%	15%	補足的、集中的に、柔軟な形態による、より特化した指導が必要な「MIM-3rd」の割合を15%以下にすることをめざす。
	(7) 安全安心な学校生活の確保	学校の安全性が確保されているか	日中の学校への不審者侵入件数	0件	0件	安全管理員が配置されている学校数を維持する。	教育政策グループ
			救命救急講習を受講した教職員の割合	100%	100%	教職員すべてが救命救急講習を受講することをめざす。	教育指導グループ
		いじめを未然に防ぐための取組みが推進されているか	「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」という設問に、肯定的な回答をする児童生徒の割合	小学校 95.9% 中学校 95.1%	小学校 100% 中学校 100%	「全国学力・学習状況調査」にて、すべての児童生徒が肯定的な回答をすることをめざす。	教育指導グループ

基本方針	重点目標	指標の考え方	指標	現状(R5)	目標	指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠、出典元	事業所属
		いじめへの対応がなされているか	「いじめ認知してから3か月以上経過しているもの」の解消率	98.3%	100%	「生徒指導上の諸問題に関する調査」にて、解消率100%をめざす。	教育指導グループ
	(8) 多様性理解の促進	多様性を理解し認め合う教育が進められているか	いじめ防止や多様性理解を促進することができたという設問に肯定的な回答をする教職員の割合	98.5%	100%	「大阪狭山市保育教育指針」に基づくふりかえりにおいて、肯定的な回答をする教職員の割合の上昇をめざす。	教育指導グループ
		多様な意見に柔軟に対応し、集団づくりができてきているか	「自分と違う意見について、考えるのは楽しい」という設問に、肯定的な回答をする児童生徒の割合	小学校 74% 中学校 75%	小学校 79% 中学校 80%	「全国学力・学習状況調査」にて、肯定的な回答をする児童生徒の割合の上昇をめざす。	教育指導グループ

基本方針	重点目標	指標の考え方	指標	現状(R5)	目標	指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠、出典元	事業所属
3 持続可能な社会のための教育環境を充実します	(9) 時代の変化に対応した学習環境などの整備	学校等施設が時代の変化に対応しているか	建替工事が完了し、利用開始した学校数	0校	1校	「大阪狭山市学校施設長寿命化計画」にもとづき、改修などの優先順位が高い学校施設から着手する。	教育政策グループ
		(10) 学校経営改革の推進	校務の効率化が図られているか	教職員の時間外在校等時間の縮減	1.8%	1%	小中学校教職員の月当たり時間外在校等時間が80時間以上の割合の減少をめざす。
	「ICTの活用による、学びの充実を図ることができた。」という設問に、肯定的な回答をする教員の割合			87.2%	90%	「大阪狭山市保育教育指針」に基づくふりかえりにおいて、肯定的な回答をする教員の割合の上昇をめざす。	教育指導グループ
	専門家や地域人材の活用がなされているか		SCやSSW、SLの検討ケース数	330回	380回	生徒指導事象の早期の解決と、教職員とアセスメントやプランニングについての連携を図るため、SCやSSW、SLなどの外部専門家の検討ケース数の15%程度増加をめざす。	教育指導グループ
		指導体制の充実に向けた専門家によるサポートを実施した学校の割合	100%	100%	専門家派遣を行う学校の割合を維持する。	教育指導グループ	
		地域人材バンクの活用回数	14回	20回	こども園における人材バンク登録者による教育活動の実施回数の増加をめざす。	こども育成グループ	
		英語教育における地域ボランティアの活用回数	28回	30回	こども園における地域ボランティアなどによる英語教育を実施する。	こども育成グループ	

基本方針	重点目標	指標の考え方	指標	現状(R5)	目標	指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠、出典元	事業所属
	(11) 家庭教育の支援	子育てや教育に関する相談体制や情報提供が充足しているか	教育指導グループで対応する保護者相談の件数	290件	250件以上	保護者相談体制の周知を図り、教育指導グループ(フリースクールみ・ら・いを含む)で受け付ける教育相談実績数を維持する。	教育指導グループ
			親まなび講座への延べ参加者数	52人	110人	参加者数の増加をめざす。	生涯学習グループ
			こども家庭支援グループで対応する児童家庭相談、ひとり親家庭相談の相談件数	2,538件	2,800件	こども家庭センターの設置による相談体制の充実も踏まえ約10%程度の増加をめざす。	こども家庭支援グループ
			利用者支援事業の相談件数	173件	210件	3か所で行う利用者支援事業において、1か所あたり約10件の相談件数増加をめざす。	こども家庭支援グループ
			利用者支援事業の保育・子育てコンシェルジュの配置数	9人	9人	保育・子育てコンシェルジュは1か所あたり3人の配置が望ましいため、配置数を維持する。	こども家庭支援グループ
			未就学児の親を対象とした子育て講座などの延べ参加人数	647人	705人	実施回数を約10%増やすことをめざし、多くの参加者に子育てや教育に関する情報提供に努め、延べ参加人数の増加をめざす。	こども家庭支援グループ
	(12) 地域の教育力の育成と社会に開かれた教育課程の実現	地域人材の育成や活用がされているか	学校園支援人材(有償ボランティア)の参加者数	480人	500人	学校園の授業などへの外部人材活用の増加をめざす。	教育指導グループ
			さやま元気っこ推進事業の参加スタッフ数	52人	80人	さやま元気っこ推進事業への高校生や大学生の参加スタッフの増加をめざす。	生涯学習グループ
			さやま元気っこ推進事業の延べ参加者数	7,123人	7,800人	さやま元気っこ推進事業の参加者数増加をめざす。	生涯学習グループ

基本方針	重点目標	指標の考え方	指標	現状(R5)	目標	指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠、出典元	事業所属
			青色防犯パトロールの実施回数	16回	20回	青少年指導員などによる青色防犯パトロールの実施回数を増やす。	生涯学習グループ
		社会に開かれた教育課程の実現が図られているか	「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という設問に、肯定的な回答をする児童生徒の割合	小学校 72.8% 中学校 57.8%	小学校 90% 中学校 90%	「全国学力・学習状況調査」にて肯定的な回答をする児童生徒の割合を90%以上をめざす。	教育指導グループ 生涯学習グループ

基本方針	重点目標	指標の考え方	指標	現状(R5)	目標	指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠、出典元	事業所属
4 郷土を愛し自ら学び、高めあう学習を推進します	(13) 生涯スポーツ活動の推進	スポーツに参加する機会が充実しているか	サタデースポーツ参加者数	5,821人	6,000人	実施種目の維持を図り、参加者の増加をめざす。	生涯学習グループ
			スポーツ団体登録者数	3,400人	3,400人	市民の体育協会登録者数を維持する。	生涯学習グループ
		スポーツをする市民が増えているか	週1回以上のスポーツ実施率	52%	70%	週1回以上のスポーツ実施率を国の「第3期スポーツ基本計画」で掲げる目標値まで引き上げることをめざす。	生涯学習グループ
			市内スポーツ施設の延べ利用者数	239,227人	252,000人	市内スポーツ施設利用者数の5%程度増加をめざす。	生涯学習グループ
	(14) 生涯学習や文化芸術活動の推進	生涯学習の活動を経験している市民が増えているか	公民館貸館利用者数	61,914人	63,100人	公民館貸館利用者数の2%程度増加をめざす。	生涯学習グループ
			図書貸出冊数	6.3冊	7.0冊	市民一人当たりの図書貸出冊数の10%程度の増加をめざす。	生涯学習グループ
	(15) 歴史文化遺産の継承と活用	歴史文化遺産を活用し歴史的価値の発信が行えているか	狭山池シンポジウムへの参加者数	57人	70人	狭山池シンポジウム参加者数増加をめざす。	生涯学習グループ
		文化財のさらなる保護・活用が進んでいるか	新規資料の収集	1件	2件	新規資料の拡充による文化財への注目度の上昇をめざす。	生涯学習グループ

基本方針	重点目標	指標の考え方	指標	現状(R5)	目標	指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠、出典元	事業所属
	(16) 郷土愛の育成	郷土への愛着が育まれているか	「郷土理解を深めるための学習の推進を図ることができた。」と答えた教員の割合	小学校 79.7% 中学校 60%	小学校 83% 中学校 63%	「大阪狭山市保育教育指針」に基づくふりかえりにおいて、肯定的な回答をする教員の割合の上昇をめざす。	教育指導グループ
		歴史文化遺産を活用した郷土を学ぶ機会が充実しているか	狭山池博物館のイベント回数	39回	39回	恒常的な集客をめざし、狭山池博物館のイベント回数の維持をめざす。	生涯学習グループ
			企画展開催期間中の博物館利用者数	15,358人	16,000人	企画展開催中の利用者数増加をめざす。	生涯学習グループ